

みんなの想い、市政に反映—伝えてつなく、明るい社会

西宮市議会だより



発行：西宮市議会 編集：広報広聴特別委員会 〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎(0798)35-3377



本会議場の議員席で“1日議員”を体験しました
=10月22日、にしのみや市民祭り「議会体感ツアー」

9月定例会 第129号

目次

- 議長所感…………… 2
- 一般質問…………… 2～7
- 9月定例会主な審議日程…………… 7
- 各委員会の活動状況…………… 8～10
- 請願…………… 10
- 高校生が「バーチャル市議会」体験…………… 10
- 議案等審議結果一覧表…………… 11
- 12月定例会の開催予定…………… 11
- にしのみや市民祭りに参加…………… 12

9月定例会の主な内容

▽「次期総合計画の策定方針」について、総務常任委員会で所管事務調査を行いました。総合計画は、市の長期的なまちづくりの指針となる大変重要なもので、現在の計画は平成30年度が最終年度となっています。

《所管事務調査》

▽「選挙管理委員会」の選管委員の選任を行いました。選挙管理委員には、嶋田克興氏、川畑和人氏、木村嘉三郎氏、松谷昇氏の4名が当選。新しい委員の任期は平成28年10月7日から4年間です。

《選挙管理委員会などの選挙》

▽西宮市青少年の夢応援基金条例案が賛成少数で否決されました。また、この基金の設置に係る予算を減額するため、一般会計補正予算(第2号)の修正案が総務常任委員会から提出され、賛成多数で可決されました。

《条例・補正予算》

企業会計		一般会計	
当期純利益	純損失	(11会計)	
▲	▲	歳出	歳入
中央病院事業会計	▲6億	893億1579万円(10.1%増)	1734億5883万円(2.8%増)
下水道事業会計	10億2417万円	900億2989万円(9.1%増)	1707億1526万円(1.9%増)
工業用水道事業会計	7465万円	5億8174万円	1526億1526万円(1.9%増)
水道事業会計	5億8174万円	10億2417万円	1707億1526万円(1.9%増)

《平成27年度決算》

▽平成27年度の各会計決算を賛成多数で認定しました。一般会計の前年度との比較では、歳入で市税収入が4年ぶりに減少する一方、国庫支出金などが増加。歳出では、公債費などが減少する一方、高木北小学校の新設などにより教育費などが増加しています。なお、実質収支は、26億3千万円の黒字となっています。

カッコ内は前年度比

「ココを伝えたい!!」

(議長記者会見より)

議長所感

■「伝える・つなぐ試み」

政務活動費を巡る問題が全国で再燃している。議会として、議員として「襟を正す」ことは当然として、やらなければならぬことは、やはり、たゆみない改革であろう。

本市議会では、議会基本条例制定の検討過程からその実践に至る今日まで、様々な改革と試みに取り組んできた。なかでも市民の皆様にも市議会の姿をより等身大に近い形で伝えようとする試みについては、本会議場のインターネット中継配信や定例会終了後の正副議長記者会見をはじめ、市民参加型の議会体感ツアーの企画・運営、小学生親子の議場見学や高校生の議会体験の受け入れなどを実施してきた。

なお、小欄では、定例会終了後に行った記者会見の目玉である「議長所感」の要約をご紹介します。

■再び二元代表制

6月の記者会見においては、「若者に投票を呼びかけた市政ニュース記事」について、新聞報道のとおり「誤解を招く」「不適切表現」と言わざるを得ず、「二元代表制の一翼」を担う議会側から、もう一方の「翼」の根元的な問題として、市長に対し、あえて警鐘を鳴らした次第である。

9月定例会でも、市長提出議案が否決され、補正予算案が修正可決された。また、一般質問においても、市長のマニフェストを巡る質問は依然つきることなく、市長の政治姿勢や考えに対する疑義も解消されることはなかった。

引き続きで誠に残念だが、特に気になった次の2点を指摘し、市長に熟慮を求めたい。
(1)議会基本条例には、「議会は、



9月定例会後の記者会見の様相

市長に対し健全な牽制関係を持つて対峙し、行政執行の監視を行う。」とあるが、一般質問で発言中の議員が「市長、そんなに睨みつけないでください」と言った場面があった。これが事実とすれば、市長に真摯に対峙する議員に対し「睨みつける」という行為は、いかなるものかと言わざるを得ない。少なくとも市長が「睨みつける」というのは、「健全な牽制関係」とは言えないと考える。

(2)待機児童対策に係る質問の市長答弁で、「留守家庭児童育成センター整備計画断念・変更」への思いを強く述べられた場面があったが、「断念」の責任が市民にあるかのようにとれる発言は、公正な配慮に欠けたのではないか。今後は、立案した行政の長として、市民の理解を得られるように地道な努力を積み重ねるよう願うところである。

一般質問

9月定例会では18人の議員が4日間にわたり質問を行いました。質問の一部を要旨で掲載しています。☒は質問した議員が作成しています。

中川 経夫(政新会)

選挙事務体制の全庁的対応について

☒ 選挙管理委員会の今回のミスは単なるミスではない。選管職員体制の問題だけではなく、全庁的に考えるべきだと思うが、市長の考えを聞きたい。
☒ 全庁を挙げて対策を講じるべきと考える。組織として選挙事務のノウハウや意識を高め、選挙管理委員会と連携を密にし、事務の体制強化に努める。

☒ 卸売市場再整備計画をどのように評価するか
☒ 卸売市場の整備について現在、再整備に向けて動き出しているが、「まちづくり」「実現性」「収支予想」について、

どのように評価しているのか。
☒ 現在の再生計画は、再開発の手法により、新市場を含む地域全体のまちづくりを実現するものであり、現段階で考え得る計画案であると認識している。ぐるっと生瀬運行
協議会の取り組み

☒ 「ぐるっと生瀬協議会」が運行主体となるコミュニティバス「ぐるっと生瀬」は市民主体の取り組みとして、全国で初めて平成28年度地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞した。これまでの取り組みについて当局の考えを聞きたい。
☒ これまでの地道な取り組みや成果を高く評価しており、他の地区においてコミュニティ交通の導入を検討する際のモデルになるものと考えている。(質問時間51分)

村上 ひろし(無所属)
よりよい広報広聴活動のために市民参加を

☒ 千葉市や他市では、ホームページのページごとに、見やすさやアクセスのしやすさに対して簡単に意見を聴く仕組みや「ちびレポ」のように市民から

紙面中の一部の会派名は、略称で掲載しています。
政新会…政新会、公明党…公明党議員団、日本共産党…日本共産党西宮市会議員団、ぜんしん…会派・ぜんしん、市民ク改革…市民クラブ改革

情報を集めたり、ツイッターを利用して災害情報を集めたりしている。西宮市では本市の広報をよりよくするために、広報広聴のあり方に関する外部評価の実施や情報発信に市民が参加していますか。

答 本市のホームページでも各ページに利用者が意見や質問を送信できる機能を設けており、また、防災訓練実施のお知らせなどの情報発信にフェイスブックやツイッターを活用している。一方、広報広聴のあり方に関する外部評価や情報発信の市民参加は現在のところ行っていない。

(質問時間24分)

菅野 雅一(せんしん)

アスベストへの不安に

対する確かな対応を

問 市立南甲子園小学校の校舍改築工事について、解体予定の旧南校舎の外壁の塗装材から1・6%のアスベストが見つかり、7月から除去工事を行った。解体済みの旧北校舎は除去工事をしておらず、保護者や周辺住民の不安への市の対応は。

答 解体時に講じた対応等により健康被害を及ぼすアスベ

トの飛散はなかったものと考えているが、要望があれば、情報提供や説明、相談を個別に行う。



改築後の南甲子園小学校北校舎

震災関連死について

平常時からの対策を

問 4月の熊本地震では震災をきっかけに体調を崩すなどして死亡する震災関連死が改めて深刻にクローズアップされた。平常時から対策を進めるべきだ。

答 引き続き「福祉避難所協定」の締結に積極的に取り組む。また、指定避難所の環境改善や住民自らが学べる避難所運営訓練などの啓発に取り組む。

共生社会の実現に向けて

神奈川県相模原市の障害

者施設殺人事件は社会に大きな衝撃を与えた。全ての市民が障

害の有無で分け隔てられることのない共生社会を実現するには。

答 障害者が地域生活へ移行するための支援体制の充実や、障害者差別の相談体制の全庁的な整備に加え、人権教育や特別支援教育をさらに進めていく。

(質問時間78分)

西田 いさお(無所属)

就学奨励金の

支給方法について

問 子どもの貧困対策の一つに就学奨励金があります。支給方法は保護者へ支給する方法(就学奨励金は後払い)がとられております。この支給金が保護者に流用され、子どもへ届かないのではとの声が聞かれます。就学奨励金の支給状況、修学旅行費用の積立金は高額となるため先渡しできないかなど教育委員会の考え方を聞きたい。

答 27年度は小・中学生の約16・3%に約4億5千万円支給した。先渡しは保護者の負担軽減となるが、整理すべき課題が多く、解決に向け研究していく。

介護付きケアハウスの

進捗状況について

問 緩和ケアにつきましては

最初の質問以来、看取り期に対する啓発活動など素早い対応をいただきました。緩和ケア、ターミナルケアを安心して受けられる施設を多くの市民が望んでおられます。中でも家庭の延長としての施設が望まれております。介護保険事業計画にある介護付きケアハウスなどの進捗状況と今後の整備に対する考えについて聞きたい。

答 介護付きケアハウスは、29年度末の利用見込み1339床に対し、27年度末時点で1177床の整備数となっている。今後も利用増が見込まれている施設であることから、引き続き計画的な整備に努める。

(質問時間35分)

八代 毅利(公明党)

食品ロス削減への

取り組みは

問 基本計画の策定に合わせた組成調査・目標設定・施策の策定を行うべきだと思うが本市はどうするのか。

答 30年度の一般廃棄物処理基本計画及びごみ減量推進計画の改定作業の一環で、来年度に家庭系・事業系ごみの詳細な組

成分分析や調査等による実態把握を行う。その上で、適正な目標設定と効果的な施策の検討を行い、次期計画に反映していく。

成年後見制度の啓発を

どうするのか

問 成年後見制度の利用促進のために、認知症サポーター養成講座等とセットで啓発してはどうか。

答 今後は、西宮いきいき体操をはじめ高齢者が集まる場所やさまざまな機会を通して積極的に成年後見制度の周知を図っていききたい。

自転車交通安全の日を

設定しては

問 自転車のマナー向上のために自転車に特化した交通安全の日を設定してはどうか。

答 自転車事故の防止等に特化したキャンペーンの日を設けられるよう警察等と協議を行う。その取り組みの中で、自転車利用者や高齢者に対して交通ルール等を周知・啓発し、事故防止や危険運転の減少に努める。その他の質問 街路樹管理について

(質問時間50分)

(次ページに続く)

一般質問(続き)

中尾 孝夫(市民の聲)

地域情報誌「宮っ子」

配布率向上の対応策は

地域情報誌「宮っ子」の配布率は88・4%だが、自治会エリア内の未加入世帯への配布を行うなど目標の100%への対応策を尋ねる。

答 未配布が生じる主な理由としては、自治会に加入していない世帯があることや配布ボランティアの不足が挙げられるため、自治会への加入啓発や配布ボランティアの拡充に努める。



地域情報誌「宮っ子」

資源ごみ持ち去り禁止

の条例制定について

ごみステーションのアルミ缶等の持ち去りは合法とのことだが、市収入額の減少になるので持ち去り禁止の条例制定などを考慮すべきと思うがどうか。

答 現在の法解釈では持ち去り行為を窃盗罪に問えないため、ごみステーションに出された物の所有権を市に帰属させるなどの条例制定について、先進市の取り組みを調査し、検討したい。

西宮北有料道路無料化

の時期について

西宮北有料道路(盤滝トンネル)の無料化は平成29年度末としているが、前倒しを含めその時期を改めて聞きたい。

答 27年度末時点の通行台数や、償還・大規模修繕の進捗状況、県による将来交通量の予測等から、無料化の時期については、当初計画から3年前倒しした29年度末を基本とする方針に変わりはない。(質問時間50分)

町田 博喜(公明党)

バス停ベンチの

早急な設置を

高齢の方からバス停にベンチを設置して欲しいという要望を聞く。要望の多い地域、商業施設周辺など優先順位をつけ、早急に取り組みべきと思うがどうか。

答 今年度、市内全てのバス

停について、ベンチの設置が可能な箇所を調査・抽出し、整備に向けてバス事業者や道路管理者と協議を進めていく。

沿岸部防災スピーカー

に回転灯の設置を

津波情報の伝達は時間との勝負である。特に沿岸部において防災行政無線のスピーカー側に赤色回転灯を設置し、危険を伝える手段の充実に図ってはどうか。

答 沿岸部の防災スピーカーに回転灯を併設することは効果的であると考え。今後、より視認性の高いフラッシュ灯なども含め設置に向けて検討を行う。



赤色回転灯付 防災スピーカー

平和施策における今後

の方向性について

戦争を体験した人が少なくなる中、他都市の資料館などと連携し、資料提供を受けること

とも考えられる。今後、どのような方向性を持って平和事業に取り組みの。

答 他都市の資料館などと連携・協力し、各施設の特色などの活用により、戦争の悲惨さ、平和の大切さをさまざまな角度から取り上げていきたい。

(質問時間43分)

野口 あけみ(日本共産党)

要支援者に必要な

介護サービスの継続を

昨年4月からの介護保険利用料2割負担導入などに続き、来年4月からは要支援1、2の方の訪問・通所介護が総合事業に移行される。これは費用削減をねらったものであり、国は総合事業に要する事業費の上限を定めている。市は、サービス提供に必要な財源を確保し、足りない場合には一般会計から補填し、上限を理由にサービス利用を制限すべきでないと考えているが、どうか。

答 総合事業に必要な費用は要支援者数の増加やサービス利用率の伸びなどを勘案して見込んでいるが、仮に上限を超えても必要な財源を確保し、サービ

入利用を制限する考えはない。

早急に保育士の

処遇改善を

本市でも大きな課題である保育所持機児童対策で、市は今後3年間で1500人の定員増をめざしている。そのためには新たに約200人の保育士確保が必要であり、処遇改善(給与改善)が不可欠だ。市独自の処遇改善策を示せ。

答 保育士確保と処遇改善に資する各種支援策を引き続き検討するとともに、国における追加の処遇改善の具体的な内容や運用方法等を見極める。その上で、市独自のさらなる給与と乗せによる処遇改善の必要性等についても検討していく。

(質問時間52分)

川村 よしと(政新会)

市内企業育成のための

の条例制定について

PF等手法は、紙の上の数値だけを見れば一定の合理性があるが、市内企業でも可能な仕事を市外に発注するのは市外に税金が流出しているという見方もできる。また、下請けとなった市内企業は安価で仕事



をせざるを得ない場合もある。こういった理由から、市や議員に各種団体から要望書が毎年のように提出されるが、これもまた非合理的である。そこで、口利きの防止、第三者機関による企業の監査や情報公開を徹底することを前提に、市の産業振興の方針を示す条例を制定すべきと考えるが、市の見解は。

答 条例を制定することで、

市の方針を示し、市が産業を支える姿勢と責任を明確にできること、市内企業への発注を拡充する効果も期待できることから、制定する意義はあると考えている。また、市内企業の活性化により、税収や雇用者数の増加につながることを期待しており、産業施策の理念と役割を定めることにより、産業と市民生活が調和したまちづくりが図れると考えているが、条例制定には、実効性を確実にする施策や方針とともに、課題やリスクの検証が必要であるため、必要に応じて全庁的に連携しながら対応する。

▼その他の質問 ごみの広域処理について、進まない行政改革と消えたマニフェストについて

(質問時間61分)

上谷 幸美(政新会)

投票のバリアフリー

体制や配慮は十分か

問 投票のバリアフリーについて。投票の機会は皆平等に与えられなければならない。全ての投票所で完璧なバリアフリーを実現することは不可能であっても、バリアフリー度情報等を開示したり相談窓口を設置することで、少しでも投票のバリアが解消されます。本年4月に障害者差別解消法が施行され、職員対応要領が策定されていることから考えれば、現状の相談体制、配慮でよいとお考えなのか。

答 投票所の形態や障害者への配慮もそれぞれ異なるため、庁内で連携して適切に対応する。今後は全投票所で合理的配慮が提供されるよう職員に周知する。



山口地区における

医療・介護の展望は

問 地域包括ケアシステムと

北部圏域の将来について。北部は、西宮市面積の半分を占めており、塩瀬、山口では地理的条件も含めそれぞれに特徴があります。山口地区においては、他の圏域に先駆けて人口減少、高齢化率の増加が予測されているが、医療、介護資源が少ない中で、今後の山口地区をどのように位置づけ、予測しているのか。

答 山口地区には中心市街地では得がたい環境が備わり、自動車交通の利便性も高いことから、医療の充実等を図ることにより地区の魅力をさらに高める。

▼その他の質問 介護人材確保

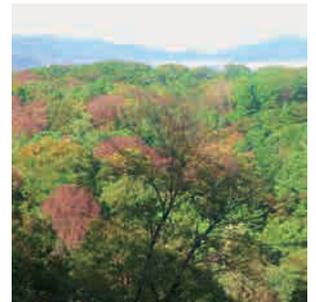
(質問時間48分)

福井 浄(無所属)

拡大するナラ枯れの対策について

問 六甲山は、ナラ枯れの発生が比較的新しく、現在も被害が拡大している。どのような対策を講じていくのか。

答 危険木の伐採等による人的被害などの防止を優先した事後的な対策と、保護樹木や景観樹林などを対象に予防薬を注入するなどの予防的な対策を効果的に組み合わせる実施していく。



ナラ枯れの様子

薬の重複処方に対する

取り組みについて

問 向精神薬の重複処方に対して国保は訪問指導を行っている。他の薬も重複チェックをすべきと考えるがどうか。

答 今後は、向精神薬だけでなく、例えば鎮痛剤など他の薬に関しても、重複して処方されている場合は、訪問指導の対象とできないか検討していく。

(質問時間25分)

杉山 たかのり(日本共産党)

公共施設マネジメント

の適正なあり方は

問 西宮市の公共施設マネジメントは、総床面積を20年で10%、50年で20%削減する目標としている。本来、公共施設の適正な配置が目的で、増設を含めてトータルで管理すべき。削減先にありきっていないか。

答 公共施設マネジメントの

取り組みは、総量を一律に削減するものではなく、あくまでも将来を見据えた公共施設の適切なあり方を指すものであり、既存の公共施設や民間施設の活用を含め、必要な機能を確保していくことが重要である。

UR借り上げ市営住宅

の住み替えについて

問 UR借り上げ市営住宅について、市は借り上げ期限後も継続入居を求める入居者を提訴したが、市の無策が原因。市として、問題点など検証をしたのか。また本来、借り上げ住宅も他の市営住宅も同じ入居者。統合計画では転居先に受け皿住宅を新設する方法をとった。借り上げ住宅も全市バラバラの転居ではなく、同様にすべきだった。そのような検討はしたのか。

答 現時点では司法の判断が示されておらず、検証は行っていない。また、住み替え計画では、受け皿住宅は建設しないが、市内全域の市営住宅を対象に希望住宅をあっせんし、住み替え期間についても比較的長期間としている。

(質問時間52分)

(次ページに続く)



一般質問(続き)

大川原 成彦(公明党)

中央病院の今後のあり方の進捗状況は

問 県に対し市議会からも経営統合を求める意見書を提出し、「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院のあり方検討委員会」が設置されたが、進捗状況はどうか。

答 これまでに開催した2回の会議では、阪神圏域の医療の現状や課題、両病院の課題等について情報共有し、議論してきた。今後開催を予定している2回の会議で、阪神圏域の医療提供体制のあり方や必要な医療機能等について協議を行った後、来年2月に報告書を公表する予定である。その報告書を踏まえ、具体的な取り組みについて県と協議・検討する。

自主・自律の学校応援

事業の今後の展開は

問 特色ある学校づくりを支援する「自主・自律の学校応援事業」が実施されて2年目だが、当年度申請・当年度実施という荒川区型の実施方式をオプショントして拡げられないか。

答 本市では、前年度から教育連携協議会と熟議を重ね、地域とともに事業計画を進めることで成果をあげている。今後も獨創性のある企画を提案してもらうことで事業の充実を図るとともに、提案された企画を吟味し、施策として全市展開できるかどうか検証する。また、他の自治体の制度で本市が採用できるものがないか研究していく。

(質問時間43分)

山田 ますと(公明党)

資源ごみ持ち去り禁止条例の早期制定を

問 資源ごみの持ち去り行為は、公共事業の信頼性や行政の信用に関わる問題であり、本市として「資源ごみ持ち去り禁止条例」を早期に制定する必要があると思うがどうか。

答 条例の制定に当たっては、ごみの対象範囲、罰則規定やパトロール方法を検討した上で予算を確保する必要があるため、来年度中の制定を目指したい。介護人材確保のために

学校と事業者の連携を

問 本市として、介護人材の確保に向けて、市内の小・中学

生に対して、人権教育やキャリア教育の視点から、介護事業者と連携した取り組みが必要だと考えるがどうか。

答 社会福祉施設での体験は、小・中学生の職業観や勤労観を確立する上で有意義であり、今後も介護従事者との交流の機会について適宜情報提供し、キャリア教育の推進を支援していく。亡くなった小動物の取り扱いについて

取り扱いについて

問 亡くなった犬、猫などの小動物を市が扱う場合は、どのように扱っているのか聞きたい。

答 飼い主の心情に配慮して、引き取りの場合は一時保管後に動物専用炉にて焼却、持ち込みの場合は庁内の安置所で焼香いただいたのちに、同様の方法で焼却している。今後も丁寧な取り扱いに努める。

(質問時間71分)

篠原 正寛(政新会)

ふるさと納税に

関する市の考えは

問 今定例会に提案されているふるさと納税事業の関係条例及び補正予算は目的がよくわからず、返礼品にすると言われる「西宮ブランド」も確立できておらず、青少年の夢応援の定義があいまいで、恣意的な運用になる恐れもある上、寄付者は結局本市青少年の保護者など市民となり、寄付の収支格差を埋めるどころか広げることになりかねないため、再考されるべきと考えるが市の考えを示せ。

答 本市ふるさと納税は、寄付目的に賛同いただくことで寄付を集めたいと考えており、返礼品は、お礼の気持ちと本市産品の周知等を目的としている。

食物アレルギー児童への対策について

問 学校給食における食物アレルギー児童への対策を本年度から統一するとされたことに対し、「それはできていない学校に合わせる安易な統一ではないか」と指摘し、「そのようなことは無い」と過去の議会で答弁

されたが、この4月から複数の学校でこれを疑わせる事象が発生した。除去食以外も含めたこの全校統一について今一度、市の考えを問う。

答 全ての児童生徒の安全性を最優先した対応が必要であるため、学校給食基本方針を改定した上で、保護者への説明を行い、改めて全校統一を進める。

(質問時間67分)

上田 さち子(日本共産党)

財政安定化基金条例の今年度中の改正を

問 国民健康保険事業では毎年のように黒字を計上し、決算剰余金の2分の1を積み立てた「財政安定化基金」は27億円になっている。この背景には被保険者への保険料が高すぎたということが言える。多額の基金を



活用し、保険料の引き下げ・抑制を図るために、必要な基金案の改正を今年度中にも行うべきと考えるがどうか。

被保険者の負担軽減は、ひいては国民健康保険制度の安定的な運営に寄与することから、基金の活用ができるように条例改正を行いたい。時期としては平成29年3月議会には提案できるように準備を進める。

老朽化する公共施設の
早急なトイレ改修を

勤労会館や勤労青少年ホームは建設後約50年となり、施設全体の老朽化が進んでいる。

多くの市民・勤労者が利用する施設であることから、特にトイレについては、和式トイレから温水洗浄便座への改修、湿式の床によるきつい臭いの解消のために乾式への改修など、早急に取り組むべきと思うがどうか。

施設を長く利用していたくためには、適宜、施設の改修が必要であり、特にトイレの改修は重要と認識している。勤労会館ホールも含め、市民に快適に利用いただけるよう、順次トイレの改修を進めていく。

(質問時間52分)

岩下 彰(市民多改革)

BSE検査の
今後の対応について

牛海綿状脳症(BSE)検査に関して、厚生労働省が食肉処理場においては原則廃止する報道があったが、今後どのようになっているのか。

国は、健康牛のBSE検査を廃止する一方、省令改正により生体検査において運動障害などの神経症状が疑われたり、全身症状を呈する24カ月齢以上の牛にはBSE検査を行うこととする方針。本市としては、法令どおり検査を行い、特定危険部位を除去するなど、適正管理・安全確保に努める。

時代や地域に合わせた
教育環境の整備を

瓦木小、鳴尾北小は児童数が2千名を超えた年があり、瓦木小は2回の分離を、鳴尾北小は校区再編もせず現在に至っている。校舎の増築が度々行なわれてきた。改築の際、地域に必要な施設との合築等、これからの時代に十分貢献できる施設を建てるべきと考えるがどうか。

現在、香櫨園小学校ほか

4校について同時に建替え事業を進めているが、今後も多くの学校で建替えが必要となるため、優先順位をつけて整備していく必要がある。老朽化した施設を最優先し、教育環境に配慮した上で、今後の少子化や地域の実情、施設の複合化や、将来的には別の用途に転用することも含めて検討し、整備を行っていく。

(質問時間48分)

はまぐち 仁士(せんしん)

学童保育問題について

教育委員会の考えは

学童保育の待機児童問題や高学年の受け入れが進んでいない問題について、教育委員会はどうにお考えか。

放課後や夏休みなどの子供の居場所については教育的配慮が必要であり、不足する留守家庭児童育成センターの施設整備にあたっては、教育委員会として協力したいと考えている。

児童が増える小学校で
弾力的な学級編制を

仮設校舎の建設や校区変更の見直しなど今ある対策に加えて、学級編制の弾力化を検討すべきだと考えるが。

少人数指導のための加配教員を配置することは、新学習システムの制度上可能だが、1学級あたりの児童生徒数を少なくすることにより得られる教育効果を考えれば、研究を重ねた上、慎重に判断することになる。



児童の増加が見込まれる
夙川小学校

小学校の教室を活用し
学童保育問題の解決を

学童保育の待機児童と市内全学校における小学4年生の夏休み期間の受け入れを最優先に、小学校の教室等を活用して問題を解決すべきだと考えるが。

校舎内への育成センターの整備に当たり、こども支援局、学校、教育委員会の3者で協議する体制をとっている。教育委員会主導で学校の理解を得られる提案・調整を行い、校舎内の部屋の活用を進めていきたい。

(質問時間73分)

9月定例会

主な審議日程

10月	9月							8月				
4日 (火)	29日 (木)	28日 (水)	27日 (火)	26日 (月)	16日 (金)	14日 (水)	13日 (火)	9日 (金)	8日 (木)	7日 (水)	6日 (火)	31日 (水)
建設常任委員会	決算特別委員会 (民生・建設分科会)	決算特別委員会 (総務・民生・建設分科会)	決算特別委員会 (総務・健康福祉・教育こども分科会)	決算特別委員会 (総務・健康福祉・教育こども分科会)	決算特別委員会(全体会) 計決算・一般・特別会 計決算	本会議 委員長報告、討論、採決、提案説明・委員会付託(企業会)	常任委員会 (民生・建設)	常任委員会 (総務・健康福祉・教育こども)	本会議 一般質問(1人) 質疑、委員会付託	本会議 一般質問(17人)		本会議 提案説明

各委員会の活動状況

常任委員会は、議会が市の事務について調査を行い、議案や請願などを詳しく審査するために設置する常設の委員会です。西宮市議会には担当分野ごとに5つの常任委員会があり、議長を除く全議員がいずれか一つの委員会に所属しています。各常任委員会で審査を経たのち、全議員が議場に集合する本会議にて議会としての意思決定がなされます。

※今号では本市議会独自の取り組みとして、常任委員会ごとに1年間重点的に調査を行う「施策研究テーマ」について掲載しています。
※文章は委員長が執筆したものです。

委員長 副委員長

総務常任委員会

長大石 伸雄 副竹尾ともえ
菅野 雅一 杉山たかのり
中尾 孝夫 西田いさお
やの 正史 山田ますと

総務常任委員会では、今年度の施策研究テーマを「**公共施設マネジメント**について」と「**共助による地域防災力の強化**について」の2件に決定しました。

決定に当たり6月定例会中から、理事者側へのヒヤリングを実施し、6月22日付けで委員宛てにテーマ募集の案内をかけました。また、7月13日、14日には政策局、防災危機管理局との懇談を実施、今年度の政策展開について説明を聴取しました。

▽公共施設マネジメント

8月2日の委員会で政策局よ

り、市の現状について説明を聴取しました。本市として「公共施設等総合管理計画」を策定し、9月定例会で所管事務報告を受けました。箱モノ施設だけでなく道路、橋梁、上下水道施設、廃棄物処理場等のインフラ施設を含む公共施設の状況を把握し、人口減少等による施設利用需要の変化など長期的な視点を持って財政負担を軽減・平準化を図りながら、施設の最適配置を実現することが狙いです。

▽共助による地域防災力の強化

21年前の阪神淡路大震災からまとめられた教訓の大きな柱に「自分の命は自分で守ろう」「地域の安全は地域で守ろう」があり、ここから「自助」「共助」「公助」の言葉が生まれ、西宮市地域防災計画にも「自

助」「共助」の重要性がうたわれています。しかしながら、20年以上たった今でも住民生活の現場では共助による防災力は、住民意識が希薄で実効性が伴っていないように思われます。内閣府がこの問題点に焦点を当て「共助による地域防災力の強化について」を掲げて「地区防災計画」の推進を打ち出しました。そこで、西宮市でもなかなか実効性のある施策が進んでいないこの部分を取り上げることにしました。

■管外視察

8月22日の委員会で防災危機管理局より、市の現状について説明を聴取しました。

化について、内閣府防災担当、東京都荒川区をそれぞれ視察、報告書を作成する予定です。

民生常任委員会

園篠原 正寛 副大原 智
川村よしと 長谷川久美子
はまぐち仁土 福井 浄
まつお正秀 村上ひろし

本委員会はいずれも直近の課題に直結したテーマを三つ選びました。

▽中央運動公園のパークマネジメントについて

西宮中央運動公園、体育館、陸上競技場等は老朽化のため再整備が企図され、平成28年3月には基本構想を提示、行政が企画、建設、管理運営までを個別に行う旧来型の整備ではなく、各種スポーツ推進計画等の理念を実現すべくコンセプトに沿った一体整備を行い、なおかつ税の投入を最小限に抑えるため、PFIなどの事業手法が予定されています。議会としてはこれから複雑な企画に着手する段階か

らかかわることを通し、より市民目線の観点から事業に良い影響を与えるべく、研究テーマとしました。

▽地域の安心・安全のための直営型防犯カメラの在り方と求める効果について

市は防犯カメラ設置事業を地域への補助セット方式(時間的に終わらせるの意)として新年度予算を計上しようとしたが、事業の持続性、映像管理の問題、設置場所の適切な誘導など、補助金だけを出すという事業手法に疑問が生じたため、予算に待ったをかけ、可決と引き換えに29年度からの直営方式の実施を明言させました。よって直営化の方向性や内容について整理・提示していく責任は議会にあり、その意義や効果について継続的に議論し、提言するため、本件を研究テーマとしました。

▽本市に期待される防犯協会の今後の在り方と組織改革について

警察署ごとに設置される防犯協会は本市の場合、西宮、甲子園それぞれに組織されており、長い歴史を有していますが、西

宮防犯協会については歴史的経緯から市主導となっていました。協会事業の大きな柱であった防犯灯設置の判断・申請が本年度より直営化された結果、協会の役割や資金の流れなどに疑問が寄せられ、現在根深い不信感に苛まれています。

議会としては地域に信頼され、地域から頼られ、本市防犯に寄与する本来の協会に生まれ変わらせることを市と協力して強力に、確実に推進するためのアイデアについて提言すべく、今回研究テーマとしました。

健康福祉常任委員会

■松山かつのり 副 上谷 幸美
河崎はじめ 岸 利之
坂上 明 佐藤みち子
澁谷 祐介 町田 博喜

本年度の施策研究テーマ

▽地域包括ケアシステムと地域における徘徊高齢者の早期発見の体制づくりについて

本市は現在、2025年を見据えた「地域包括ケア計画」として、平成27年度から平成29年度の3ヶ年計画を進めています。高齢者の増加に伴い、とりわけ今後増加すると予想される認

知症高齢者やその家族の支援体制の充実、地域資源を生かした取り組み、また認知症を正しく理解するための方策など、福祉に関連する事業が広範囲にわたることから、本委員会では社会的にも問題となっている徘徊高齢者の早期発見に向けた仕組みの構築を目指しています。29年度に開始する予定の「認知症SOSメール配信事業」については、効果的な運用ができるように地域の見守りと支援体制の構築・強化に向けた提言を行ってまいりたいと考えております。

▽要介護度改善に取り組むことにインセンティブをもたらず制度について

介護保険制度では、要介護度に応じて介護報酬が設定されることから、要介護度が改善すれば介護報酬が下がるため、事業者が介護度の改善に消極的になりやすいという課題があります。昨今、多くの自治体が介護保

険サービス事業者に対し、利用者の要介護度が改善した場合などに、金銭的なインセンティブを与える動きが広がっています。これは、改善した人数、改善後の維持などによって「奨励金」

の交付や優良事業者として自治体が表彰することで、事業所や施設職員の意識向上を図り、質の良いサービスの提供が継続して行えることを目的とした事業であり、西宮市にとっても要介護（要支援）認定者数の増加に一定の歯止めの効果が期待できるものとして、すでに取り組んでいる先進市に調査・研究を行い、本市の方向性を示してまいりたいと考えております。

管内視察

本年4月に開設した介護老人福祉施設・ローズガーデン甲子園で実施しました。この施設はユニット型特別養護老人ホームとケアハウスとして運営し、施設内にはローズクリニックの機能を併せ持っています。また、本年3月に閉園した西宮市立軽費老人ホーム雅楽荘の入居者の受け皿でもあります。

教育こども常任委員会

■長 よつや 薫 副 吉井 竜二
一色 風子 岩下 彰
大川原成彦 野口あけみ
八代 毅利 わたなげ謙二朗

今年度の教育こども常任委員会の施策研究テーマを決めるに

あたっては、まず、各委員が意見を出し合い、子どもの貧困対策、子どもの居場所、保育所待機児童対策、児童虐待、学校施設のあり方、英語教育、ICT教育などの項目がありました。その中から、特に、子どもの貧困、児童虐待、子どもの居場所などに絞り、メインのテーマを「**子どもの育ちへの施策について**」としました。

委員相互の協議の中で、一つの大きなテーマに絞ってその点を深く掘り下げるよりも、

本年は、子どもたちが置かれている状況や、子育てにかかわる様々な課題を研究しようということになったものです。具体的内容として、各委員の捨てがたい意見が多くあり、それらの中で、管内・管外の視察の時期や市が取り組む生活実態調査の時期などその調査に応じて、いくつかサブテーマのような形で、順次、①児童虐待について、②乳児期の支援について、③子どもの居場所について、④子どもの貧困対策の4項目について取り組むことになりました。

①については、家庭における環境の支援についてですが、と

りわけ増加傾向にある児童虐待について市がどのように取り組んでいるのか調査していきます。その一環として、8月、兵庫県の子童相談所である西宮こども家庭センターに伺い、児童相談所の施設を拝見しながら、機能や相談件数、虐待防止への取り組み等と、市との連携の実際を聞き、9月に市の取り組みを調査した上、委員会からの提言を考察していきます。

②についても、同じく8月に訪れた西宮市子育て総合センターでの管内視察などで得た幼児期の支援のいくつかの事業について調査・研究していきます。

③については、10月の管外視察で、東京都杉並区の一児童青少年センター、文京区の「ピラボ」、豊島区にある「子どもワクワクネットワーク」の「池袋本町プレーパーク」などに伺い、調査を進めます。

④についても、同じく10月、貧困対策の先行自治体である東京都足立区を訪れ「子どもの貧困対策実施計画」について伺い、③、④についてもそれぞれ、来年6月の提言にむけて、調査・研究していく予定です。

建設常任委員会

園田中 正剛 園花岡ゆたか
上田さち子 草加 智清
庄本けんじ 中川 経夫
山口 英治

①施策研究テーマ

▽高齢化社会における交通政策について

本年8月に第10次西宮市交通安全計画(案)が示され、9月には西宮市総合交通戦略が完成しました。高齢化が進むなか、私たち議員は、市民から交通に関する意見・要望を伺うことも多く、特に高齢者の市内移動の利便性や安全性を向上する必要性を感じています。そこで、今年度のテーマとして「高齢化社会における交通政策」を取り上げ、市民からの情報と市が策定した計画の内容を踏まえ、より具体的な施策を提言することを目標にしています。当面は、「バス路線・利便性の向上」、「自転車の安全対策」、「歩道のバリアフリー化(歩行者の安全対策)」に絞って調査・検討を進める予定です。

▽開発行政について

昨今、大型マンションの建設

や大規模な宅地開発が市内各所で進められ、公立小・中学校の教室や保育所等施設が不足し、交通渋滞の頻発など交通環境も悪化しています。そこで、「開発行政」をテーマとし、開発規制のあり方や、地区計画の策定等市民参画による計画的なまちづくりの現状について調査します。そして、大規模開発による周辺環境への影響を低減する方策を、市に対して提言することを目標にしています。

②視察

■管内視察

8月24日に、再整備された市営住宅甲子園春風町団地と老朽化した住宅を視察しました。そして、11月には、生瀬地区の住民のご尽力により、昨年運行開始した乗合コミュニティ交通「ぐるつと生瀬」について研修し、新たに建設される青葉台と花の峯を結ぶ「青峯連絡道」の建設予定地と、老朽化により架け替えの検討が始まる「西宝橋」を視察する予定です。

■管外視察

11月に、東京都練馬区にて、まちづくり条例と景観条例及びコミュニティバスについて、千

葉県柏市にて、総合交通戦略及びオンデマンド交通について、石川県金沢市にて、まちづくり条例及び公共交通の促進に関する条例について、それぞれ取り組みを研修させて頂き、コミュニティ交通導入や条例制定の効果等について調査する予定です。

請願

【採択】

○『(仮称)西宮市高塚町計画』

についての請願

【みなし採択】※

○法曹人口政策の早期見直し及び司法修習生への経済的支援の実施を求める意見書についての請願

※同趣旨の意見書の可決により採択とみなされたもの。



高校生が「バーチャル市議会」体験

兵庫県立西宮今津高校の総合学科2年生30人が10月20日、西宮市議会を訪問し、本会議場の議員席に座って「バーチャル市議会」を体験しました。

この試みは同校が西宮市への理解を深め、市民性を養うことを目的に企画したもので、今回が初めて。30人が5つのグループに分かれて行政についての質問を考えました。

当日、生徒たちは議員席に座り、議員の名札に自分の名前を書いた紙製のカバーをかぶせ、「1日議員」を体験。広報広聴特別委員長がプロジェクターを使って市議会の仕組みなどを説



明しました。

「バーチャル市議会」では、生徒たちが演壇に上がって、一般質問。議長らに対して「多くの認可外保育園では外遊びできない園庭がない。この環境で子どもたちをすくすく育てることができるのか」「少子化でこの先学校の統廃合を検討するのか」など、市政の実態に即した鋭い質問をしました。

「神奈川県相模原市の福祉施設の入所者を襲った事件があったが、西宮市内の福祉施設で何らかの安全対策をとったのか」といった福祉関係の質問や「ごみ捨て場の『カラス対策』」などのように取り組んでいるのか」などの身近な質問も出され、議長らが熱心に答弁。本番の市議会さながらの真剣な議論が展開されました。

生徒たちは「議員の皆さんはイメージと違って個性があり、楽しかった」「自分が親になった時を考えて待機児童問題に関心をもつようになった」と感想を述べました。

同様の企画をご希望の学校関係者の方々、いつでも議会事務局にご連絡下さい！

平成28年9月定例会

議案等審議結果一覧表

全会一致で可決されたもの

Table with 4 rows and 2 columns. Rows include: 決算 (平成27年度決算), 市長提出 (平成28年度補正予算), 一般 (訴え提起), 人事 (固定資産評価審査委員会委員の選任), 議員提出 (意見書).

表決態度が分かれたもの

(○賛成、×反対)

Large table with 10 columns (Party names) and 10 rows (Cases). Columns include: 会派名等, 政新会, 公明党議員団, 日本共産党西宮市会議員団, 会派・ぜんしん, 市民クラブ改革, 無所属. Rows include: 議決結果, 案件名, 平成27年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定, etc.

採決結果の○は、提出された議案などが賛成多数で可決されたことを、×は否決されたことを示しています。(「退場」とは、採決に参加しなかったことを示しています。)

(※1) 修正案が可決されたため、原案全体の採決はされていません。(※2) 委員会提出による修正案です。

Calendar table for the 12th Regular Session. Columns: 20日(火), 19日(月), 15日(木), 14日(水), 13日(火), 9日(金), 8日(木), 7日(水), 6日(火), 11月30日(水). Activities include: 予備日, 本会議採決など, 常任委員会, 本会議一般質問, 本会議一般質問, 本会議提案説明.

12月定例会で審査する請願・陳情の締め切り(予定)は、12月6日(火)午後5時までです。

問い合わせ先：議会事務局 議事調査課 TEL (0798) 35-3377

初 議会体感ツアーを開催!!

～にしのみや市民祭りに参加～



西宮市議会は10月22日、にしのみや市民祭りに参加し、「議会体感ツアー」を開催しました。家族連れの方々を中心に大盛況。議員の案内で本会議場を見学し、市議会についての説明を聞いたり、議長席などで記念撮影をしたり、私たち議員と市民の皆様で、楽しいひとときを過ごしました。

この催しは今回が初めてで、市民の皆様を楽しみながら議会を身近なものに感じてもらうために、市議会がツアーの企画を手作りで練り上げました。

ツアーは午後1時から計5回開催。議会棟1階の受付を済ませた参加者たちは議員の案内で議会棟内へ。本会議場では議員席に座り、議会の雰囲気味わって頂きました。

まず、広報広聴特別委員長がプロジェクトを使って市議会などについて説明クイズコーナーもあり、1問ごとに歓声此起彼伏、大きな盛り上がりを見せました。

参加者の中には子供たちも多く、本会議場で記念撮影をした後、記念品のポールペンやノートをもらって大喜び。参加者たちは「本会議場に入ったのは初めてで、貴重な経験だった」「家族と一緒に議会の体験ができて良い思い出になった」「私たちの暮らしに関係があることが市議会で決まっていることがよく分かった」と話していました。

西宮市議会としては、今後も市民の皆様様に議会を身近に感じて頂けるような取り組みを企画していきたいと思えます。